

小松電機

ソウルに製造子会社

シートシャッター製造の最大手「アジア進出第1号」

シートシャッター製造の最大手「小松電機産業」(本社・松江市)がソウル市に完全子会社、コマツコリアを設立、今月中旬に製造を始める。製造部門の現地法人を各国に展開する同社のアジア戦略の第1号。小松昭夫社長は3日、「ユーザーの近くにコンビニエンスストアのように製造拠点を置く『コンビニ化』を進めるため、近くタイ、シンガポール、マ

レーシア、中国で(進出のための)調査をする」と語った。

境港(境港市)に同日、コマツコリア協力企業から調達した部材がDBSクルーズフェリーで初輸入され、松江工場に運ばれた。部材は従来の鉄製から転換したアルミニウム製のフレーム500本、巻き取りドラム220本。今後毎月1回のペースで輸入する。

コマツコリアは資本金3億ウォード、小松社長が代表理事。5月12日に設立登記した。ソウル近くの始興市に工場がある。

小松電機産業はフレームなどの部材が鉄製のシートシャッター「門番」を年間5000台製造し、約3000台を輸出。今後はアルミニウム製部材の新型を本社とコマツコリアの2拠点体制で年間5000台製造する。



初輸入の部材を積んだトラックを送る小松昭夫社長(左から3人目)ら一境港で

シートシャッターの国内シェアは30%という。

【小松原弘人】